

## 街路景観の多様性と統一性に関する研究

松永, 一郎

<https://doi.org/10.15017/1654897>

---

出版情報 : 九州大学, 2015, 博士 (芸術工学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : 全文ファイル公表済

氏名	松永 一郎			
論文名	街路景観の多様性と統一性に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	田上 健一
	副査	九州大学	教授	土居 義岳
	副査	九州大学	准教授	鵜飼 哲矢

## 論文審査の結果の要旨

都市空間における街路景観研究の中心的課題は、形態分析や心理量分析を主軸とし、いわゆる美しさや良好なものといった表層的安定性を求める目的的なものであった。近代化以降の国内都市の街路景観は、まとまりのない雑然としたものと評価されて長いが、形態・色・材料など多種多様な建築、すなわち個の集積体を単なる統一体としての調和や静的対象として取り扱うのみでは本質的な都市の活力や魅力を創出することはできない。個々の集積が多様性の中に統一性をもたらすことを理解し、そのことを定量的に解析し評価することは、これからの街路景観計画にとって極めて重要なことだと考えられる。

「街路景観の多様性と統一性に関する研究」は、個々の断片的な視覚情報を基底的条件としながらもまとまりとしての全体構造を把握するために、Simpsonの多様度指数を尺度として、多様性と統一性という視点から街路景観を客観的に評価する手法を確立しようとしたものである。

第1章は、研究の目的と方法および既往研究について述べている。

第2章は、Simpsonの多様度指数について、理論的フレームと街路景観分析に応用展開する方法について述べている。

第3章は、連続立面図を用いた街路景観の材料構成の分析を行い、街路特性により材料構成に差異が生じることを指摘した上で、街路全面と建築単体ファサードという異なる2つのレベルで多様性・統一性を論じることの妥当性について論じている。

第4章は、福岡市の都市空間内複数街路を対象として、色相・彩度・明度・材料・部位という5要素を抽出し、Simpsonの多様度指数を指標とし多様性・統一性について解析・評価を行っている。その結果として、街路全体の多様性は、色彩および材料により強く規定され、それは建物単位の多様性が高い場合と建物間の多様性が高い場合であることを指摘している。

第5章は、連続写真による評価実験を行い、物理量と心理量の相関分析を行っている。その結果として、色相・彩度・明度のSimpsonの多様度指数と多様性の印象評価、および素材のSimpsonの多様度指数と統一性の印象評価には強い相関があることを指摘している。また、ラフ集合理論の分析から、材料のSimpsonの多様度指数が物的な指標となることを理論的に補完している。

第6章は、福岡市けやき通りを対象とし、時系列による連続写真をもとにしたシークエンス・グラフにより、色相と彩度のSimpsonの多様度指数は両者に強い相関があることが指摘している。

第7章は、景観ガイドラインとして適用・実装化について検討し、建築単体・街区・地区

レベルといったスケールが異なる次元でも展開可能なことを実証している。また、その異なるスケールやエリアごとに多様性・統一性を制御可能なことを提案している。

第8章は、研究の総括と今後の課題について述べている。Simpsonの多様度指数と他の尺度との複層化の可能性、重層的街並み形成のための景観ガイドラインへの応用について言及している。

以上のように、本論文は、Simpsonの多様度指数を用いた研究手法の開発と、緻密な解析と結果に基づいた新しい街路景観計画の視点を提供していると同時に、今後の都市計画学・建築計画学の発展に大いなる寄与を行っている。また、研究の成果は、これからの景観ガイドライン策定や景観整備にとって大きな参考となると考えられる。

よって本論文は博士（芸術工学）の学位論文として合格と認められる。